

正誤表

補注：

崇光天皇は観応二年十一月七日に南朝側によって廃位されたが、この頃に北朝側の重臣洞院公賢が日記『園太暦』では崇光を「主上」と表記している（『園太暦』観応二年十一月九日条）。同年十二月二十八日に崇光に「太上天皇」の尊号が奉られており、その後に公賢が日記では崇光を「新院」と表記している。以上を踏まえて、「長日如意輪法六」は観応二年十二月二十八日以降に成立したと考える。

訂正：

- (1) 193 頁下段 14 行目、「尊円が自分の名前を略記したと考えられる」→「尊円が自分の名前を略記させたと考えられる」に訂正する。
- (2) 同頁下段 25 行目、「尊円、良慶、賢俊が崇光即位後の代始護持僧となった」→「尊円、良慶、賢俊が崇光即位後の長日三壇御修法を勤修し始めた」に訂正する。
- (3) 199 頁下段 8 行目、「続」右の「也」に読点を加え、「也、」とする。
- (4) 203 頁上段「・院」の割注のうち右側の「踐祚」に読点を加え「踐祚、」とする。
- (5) 204 頁上段 8 行目「一説」に読点を加え、「一説、」とする。
- (6) 208 頁上段 3 行目の割注のうち右側の「後」および左側の「例」にそれぞれ読点を加え、「後、」・「例、」とする。